

トピックス

第17回 計測工業展 来場者45,000名を越える盛況

—— 株式会社共和電業 新しいニーズに応える製品を出展 ——

The 17th Japan Electric Measurement & Control Instruments-Automation Exhibition was successfully held at Harumi, Tokyo from 15 to 18 November 1977 with 74 exhibitors and over 45,000 visitors. Developed to fill today's industrial demands, Kyowa exhibits included in four display sections strain gages, strain measuring instruments, data recorders, data processing systems, load cells and weighing systems.

第17回計測工業展はさる11月15日から18日の4日間、東京晴海の東京国際貿易センター東館(ドーム館)で開催された。本展示会はわが国の代表的な電気計測器メーカーが多年培ってきたノウハウ、エレクトロニクス技術を結集して開発した新製品、新システムを展示するため隔年ごとに開いているもので、展示小間数は前回の392小間から380小間へ減ったにもかかわらず、出品社数は66社から74社へ増えている。本展示会の4日間の来場者数は、45000名を越え予想をこえる盛況をきわめた。

本展示会に出品した株式会社共和電業では、ひずみゲージ、ひず

み測定器、データレコーダ、ウェインシステムなどをブロックに分け、新しいニーズに応える製品を展示した。

ひずみゲージのブロックでは、低高温用ゲージ(KFL, KFII型ゲージ)プラスチック用ゲージ(KFP型)。ひずみ測定器のブロックでは、測定の高速度化、省力化をポイントに初期記憶演算回路付デジタルひずみ測定装置(SD-510A, ASB-50E)とオートバランス式動ひずみ測定器(DPM-210A)。データレコーダのブロックでは、カセット式データレコーダの新型として騒音測定用(RTP-530A)とシグナルコンディショナ(直流増幅器)を内蔵したタイプ(RTP-595A)。データ処理では、4チャンネルのアナログデータを簡単に紙テープにちん孔できるデータ編集・変換装置 DAAS-20B。ロードセルおよびウェインシステムのブロックでは、重量の測定が電気式へ移行しつつあるニーズにポイントをあわせて、高精度型、低温用、高温用、薄型などのロードセル、計装用増幅器、設定器、デジタル指示器、和差演算器などを展示。

